

安芸市井ノ口地区

地域農業の未来を考える集落座談会（１回目まとめ）

1. 実施日時：令和6年9月4日（水）14:00～16:00

2. 実施場所：安芸市役所2階第1会議室（安芸市土居82番地1）

3. 参加者：地域の担い手等（4名）
JA高知県安芸営農経済センター等（3名）
高知県安芸農業振興センター（1名）
安芸市農業委員会（1名）
安芸市農林課（1名）

計10名

4. テーマ：「井ノ口地区が目指す農業の将来像」

5. 会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

- ・ 庁舎移転により、農用地と宅地等とのすみ分けが課題。
- ・ 米価が低すぎて経営が成り立たない。稲作は国による関与が必要。
- ・ 米作りは農地の維持管理に適している。
- ・ 「寒暖差のない平地で作る米は美味しくない」とのイメージを持たれている。
- ・ 農業は魅力的な職業ではないので子どもには勧めることができない。
- ・ 担い手確保に向け、基盤整備による農地の集約化、大区画化が重要。
- ・ 産地強化のためには高知なすのブランド化を進める必要がある。
- ・ 地域出身の後継者が農業を続けていく環境が不十分。

②課題解決に向けた取組

- ・ 施設ナスの収入がない夏場の収入源を確保して安定した農業を展開する。
- ・ AIなど最新技術を取り入れて儲かる農業を実現する。
- ・ 集落営農法人を設立し、農業に従事する間は法人へ所属、リタイア後は同法人に雇用される形式を取る。
- ・ 基盤整備により農地の集約化を図り、耕作放棄地を解消する。
- ・ 米の産地化を進め、安定した収入を確保し、担い手を確保する。
- ・ 新たな集落営農組織により、手入れの行き届かない農地の維持を図る。

【座談会の様子】

《第1班》



テーマ 井ノ口地区が目指す農業の将来像	
第1班	
No. こんな地域農業を実現したい！	実現するための方法
1 農業経営の安定化	- 産地化を進め安定した収入の確保 - 構造改善による省力化 - 経営安定に負担を軽減する
2 耕作放棄地の解消	- 基盤整備による効率化 - 集落営農組織の設立 - 集約化
3	



■班内で出された意見■

- ・構造改善（区画整備や道路整備）による農地の効率化が必要。
- ・農用地と宅地等とのすみ分けをどうしていくのが課題。
- ・過去のように国が政策として米価を安定させれば、耕作放棄地は少なくなる。
- ・稲作は収入の少ない夏場のつなぎとして適していたが、今は米価が低すぎて赤字。米作りは年1回の耕作で農地の維持も図られて良いのだが。
- ・米をブランド化して稼いでいる地域もあるが、「高知のような寒暖差のない平地で作る米は味が落ちる」とのイメージがついているので、価格も上がらない。
- ・新たに集落営農組織を立ち上げ、今後の稲作を大規模に任せる。
- ・市やJA、生産者が負担し合って新たな営農組織（農業公社？）を設立し、栽培から収穫、6次産業化に至るまで幅広く担ってもらう。
- ・農業は十分な収入を得られる魅力的な職業ではないので子どもには勧めることができない。

《第2班》



テーマ 井ノ口地区が目指す農業の将来像	
第2班	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 法人化	・ 集落営農法人 ・ 農業できる間は法人へ所属 ・ 農業リタイアした時→雇用される (40代の確保)
2 耕作放棄地の解消	・ 法人化 ・ 農地の集約化 ・ 基盤整備
3 もうかる農業	・ 夏場の収入源を確保 ・ 最新の農業を取り入れる ・ ナス産地のブランド化 (安芸=ナス)



■班内で出された意見■

- ・ 基盤整備による農地の集約化、大区画化を進めてほしい。
- ・ 耕作放棄地がない地域を目指したい。
- ・ 法人による農地管理を検討する。
- ・ 今以上に「ナスと言えば高知！」と認知させ、ブランド化を進める。
- ・ ドローンや自走式草刈機など、最新のスマート農業を取り入れる。
- ・ 楽しく儲けることができる農業になれば若者も集まる。
- ・ 地域出身の後継者が農業を続けていけるような体制を整備する。
- ・ 収入がなくなる7月～9月の収入源となるような品目の栽培を検討したい。(オクラ等)